

新しい将来ビジョンの検討の進め方

1 趣旨

21 世紀初頭の兵庫のめざす将来像を示し、中長期の県政の指針ともなっている「21 世紀兵庫長期ビジョン」（2001 年策定、2011 年改訂）の想定年次（2020 年頃）が到来した。

ビジョン策定から 20 年、改訂から 10 年近い時が経つ。世界も日本も大きく変化する中であつて、今後の兵庫づくりの方向性を県民と共に考え直す時期が来ている。

現行ビジョンに代わる新しい将来ビジョンの策定に向けて、以下により検討を進める。

2 検討に当たっての展望年次

当面、一世代後の概ね 30 年後の 2050 年を「展望年次」として検討を進める。

※現行ビジョンの「想定年次」に相当する新ビジョンの目標年次の設定については今後検討する。

（参考）現行ビジョンでは、将来を考えるために見通しておく時期（概ね 30 年後）を「展望年次」、ビジョン実現に向けた取組の時期（概ね 10～15 年後）を「想定年次」としている。

当初（2001 年 02 月）[展望年次] 2030 年頃 [想定年次] 2010～15 年頃

改訂（2011 年 12 月）[展望年次] 2040 年頃 [想定年次] 2020 年頃

3 想定する新ビジョンの姿

(1) 新ビジョンの構成

現行ビジョンでは、4 つの社会像からなる「全県ビジョン」に加え、共通の特性を有する地域ごとに県民が主体となって地域の将来像と行動目標を示す「地域ビジョン」を策定している。新ビジョンでも、現行ビジョン同様、全県ビジョンと地域ビジョンを策定する。

(2) 新全県ビジョンの性格

新全県ビジョン＝新地域ビジョンの大枠ともなる県全体の骨太な将来像を示すもの

《新全県ビジョンに期待される性格》

- ・出発点として、人口減少等の社会変化の趨勢をもとに自然体の兵庫の将来像を示すこと
- ・県民の価値観や生活様式の変化の行方を見通し、選択可能な未来として将来像を示すこと
- ・予測困難な未来に対して、県民が共有できる「なりたい姿（理想像）」を骨太に示すこと

(3) 新地域ビジョンの性格

新地域ビジョン＝共通の特性を有する地域ごとの将来像と行動目標を示すもの

《新地域ビジョンに期待される性格》

- ・人口減少等の社会変化の様相を地域の特性に合わせて分かりやすく「見える化」すること
- ・住民が共有できる「なりたい姿」を大胆に描き、中長期的な地域づくりの方向性を示すこと

《新地域ビジョンの策定単位》

- ・新地域ビジョンは原則として県民局・県民センター単位に策定する。

①神戸、②阪神、③東播磨、④北播磨、⑤中播磨、⑥西播磨、⑦但馬、⑧丹波、⑨淡路

※県民局・県民センターを数年内に統合予定の阪神南・阪神北は南北を合わせた「阪神」の単位で策定

4 新ビジョン検討の進め方

新全県ビジョンは「将来構想研究会」及び「長期ビジョン審議会」を中心に、新地域ビジョンは地域ごとに設置する「新地域ビジョン検討委員会」を中心に検討を進める。

(1) 将来構想研究会【設置済：2019～20年度】

①設置目的

- ・人口減少・偏在化、県民の価値観の変化、科学技術の進展等の社会潮流の調査研究
- ・新全県ビジョンのたたき台となる将来構想試案の作成

②委員構成

氏名	所属・役職	備考
阿部 真大	甲南大学文学部教授	
石川 路子	甲南大学経済学部教授	
大平 和弘	兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師	
織田澤 利守	神戸大学大学院工学研究科准教授	
加藤 恵正	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授	座長
笹嶋 宗彦	兵庫県立大学社会情報科学部准教授	座長代理
永田 夏来	兵庫教育大学大学院学校教育研究科講師	
中塚 雅也	神戸大学大学院農学研究科准教授	
服部 泰宏	神戸大学大学院経営学研究科准教授	

※上記委員の他、検討テーマに応じてゲストスピーカーを招聘

③研究会の進め方

ア) 検討の基本枠組み

- ・現時点で想定される社会変化をもとに将来の兵庫の姿を描出（フォーキャスト）
- ・理想とする兵庫像を描き、そこから逆算して今後の道筋を提示（バックキャスト）
- ・「フォーキャスト」「バックキャスト」双方の検討成果をもとに将来構想試案を作成

イ) 主な検討課題

- [策定方針] 新ビジョンが担う機能、基本哲学、作成スタイル、策定プロセス等
- [人口動態] 新ビジョン検討の基礎となる地域別の人口・世帯数の将来見込み
- [社会潮流] 将来の県民の価値観、生活様式、家族の姿、科学技術、社会経済、県土空間等
- [将来構想] 2050年頃の兵庫県の「なりたい姿」とその実現のために乗り越えるべき課題

ウ) 2019年度の検討状況

- ・計5回の会議の開催を通じて新ビジョンのキーワードや検討の視点を抽出
- ・新ビジョン検討の基礎となる市区町別将来推計人口（2015～65年）を作成
- ・社会潮流の検討に先立ち、兵庫の未来を俯瞰するAIによる未来予測を実施
- ・新ビジョン検討の基礎資料とするため、近年の人口動態、政策の方向性と主な課題、地域の将来展望等について、県内全市町（企画担当課）の聞き取り調査を実施

エ) 2020年度の予定

- ・社会潮流（8回程度）と将来構想（2回程度）で計10回程度の会議を開催予定
- ・「社会潮流」では、主要テーマ別に、潮流変化を示すデータ、事例等の基礎資料と、ゲストスピーカーのプレゼンテーションをもとに討議
- ・「将来構想」では、それまでの検討成果を集約して、本県のめざす姿や乗り越えるべき課題について討議し、新全県ビジョンのたたき台となる将来構想試案を取りまとめ

(2) 長期ビジョン審議会【改組：2020～21年度】

- ・新ビジョン策定を調査審議（2020年度当初に委員改選）
- ・新全県ビジョン案の取りまとめに当たる小委員会（有識者を中心に10名程度）を設置
※将来構想研究会の「将来構想試案」を受けて小委員会を設置予定（目標：令和3年1月）

(3) 新地域ビジョン検討委員会【新設：2020～21年度】

- ・新地域ビジョンの策定主体となる「新地域ビジョン検討委員会（仮称）」を各地域に設置
- ・地域の資源や課題の調査、新地域ビジョン案の起草、公開の討議の場の企画運営等を実施

《検討委員会の構成》

- ア) 域内の全市町の代表者（各1名） ※企画担当課長等を想定
- イ) 域内の地域ビジョン委員会の代表者（1～2名）
※第10期地域ビジョン委員（2020～21年度）で構成する地域ビジョン委員会を県民局・県民センター単位に設置。同委員会の代表者が検討委員会に参画
- ウ) 有識者（2～3名） ※うち1名が委員長となる想定
- エ) その他（若干名） ※地域のキーパーソンの参画を想定

《地域ビジョン委員会の参画》

- ・ビジョン実現に向けた実践活動の担い手である地域ビジョン委員で構成する地域ビジョン委員会においても、有志による提案の検討など、新地域ビジョン策定に連携協力
※第10期地域ビジョン委員委嘱状交付式で新ビジョン検討の進め方の説明・意見交換を実施

(4) 県民との意見交換

- ・県政の基本姿勢である「参画と協働」により新ビジョンの策定を進めるため、パブリック・コメント手続に加えて、様々な形で県民との意見交換を実施

①様々な意見交換会の開催

- ・以下の会議形式を基本に様々な形で県民、事業者、地域団体等との意見交換会を開催
 - ア) 地域デザイン会議 [時期] 主に2020年度中
 - ・住民有志が討議を重ねて将来の地域デザインを描くワークショップを地域別に開催
※未来人になって望ましい地域の姿を描く「フューチャーデザイン」など効果的な手法を導入
 - イ) ビジョンを語る会 [時期] 主に2020年度中
 - ・地域の様々な団体・グループのメンバーと地域の課題や将来像について車座形式で対話
 - ウ) ビジョン出前講座 [時期] 主に2020年度～2021年度前半
 - ・若者がグループワーク形式で兵庫の未来を考える出前講座を高校、大学等で実施
 - エ) 未来フォーラム [時期] 主に2020年度後半～2021年度前半
 - ・新ビジョン案（全県・地域）の方向性の住民向け説明会・意見交換会を県内各地で開催

② SNSの活用

- ・Facebook 等の SNS を活用して新ビジョン検討の進捗状況、キーワード等を発信・共有
- ※誰もが最新の情報に簡単にアクセスでき、いつでもどこからでも書き込める掲示板として運用

③ 県民意識調査の実施

- ・地域の将来に関する県民の意識を把握するため、県民 5,000 名を対象とした意識調査を実施

④ ヒアリング調査の実施

- ・地域のキーパーソン、先進的な活動をしている事業者・地域団体等の聴き取り調査を実施

5 全体スケジュール（大まかな流れ）

